

K O B E

CHECK

広報紙デジタル版公開中！
いつでもどこでも、スマホで読めます！

アクセスは
こちら ▶



南海トラフ地震への備え

安心・安全な 津波対策

防潮堤

でまちを守る！

ドローン

で安全確認！

タブレットで
防潮鉄扉を遠隔操作





特集

南海トラフ地震への備え

安心・安全な津波対策

紙面版にはない
オリジナル記事が読める
デジタル版はこちら ▶



今後30年の間に約8割の確率で発生するといわれている南海トラフ地震。市では、地震で発生する津波から命やまちを守るため、2015年度から津波対策を強化してきました。今回は、2023年3月末に完了した、全国トップレベルの津波対策を紹介します。

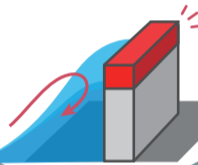
神戸を守る、強くなった

防潮堤

POINT

01

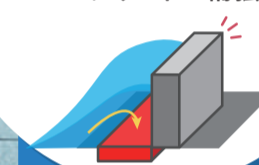
海水が堤防を越えないように、防潮堤を高く！



POINT

02

津波によって土台を壊されないように、コンクリートで補強！



POINT

03

継ぎ目から海水が流れ込まないように、すき間が空にくいよう強化！



東日本大震災では、マグニチュード9クラスの地震が発生し、想定を超える高さの津波が押し寄せました。もし、東日本大震災と同じくらいの巨大地震が起きたら、最大3.9mの津波が神戸を襲うと想定されています。これまでも神戸のまちは、全長約60kmの防潮堤により、高潮と津波から守られてきました。今回、さらに大きな津波に備えるため、約8年かけて防潮堤を粘り強い構造に強化しました。

最新技術を活用した 防災設備

市は、デジタル技術を活用したスマートシティを推進中。津波対策にも、スマートシティならではの設備を導入しました。タブレットによる遠隔操作で防潮鉄扉を迅速に閉めたり、ドローンを使って空から被災状況を確認したり、最新の技術を活用しています。災害の対応に携わる人も津波に巻き込まれることなく、安全に作業できるようになりました。



閉まって
いきます

全国初

① タブレットによる防潮鉄扉の遠隔操作



メリケンパーク

防潮鉄扉を操作する職員がどこにいてもタブレットで開閉できます。

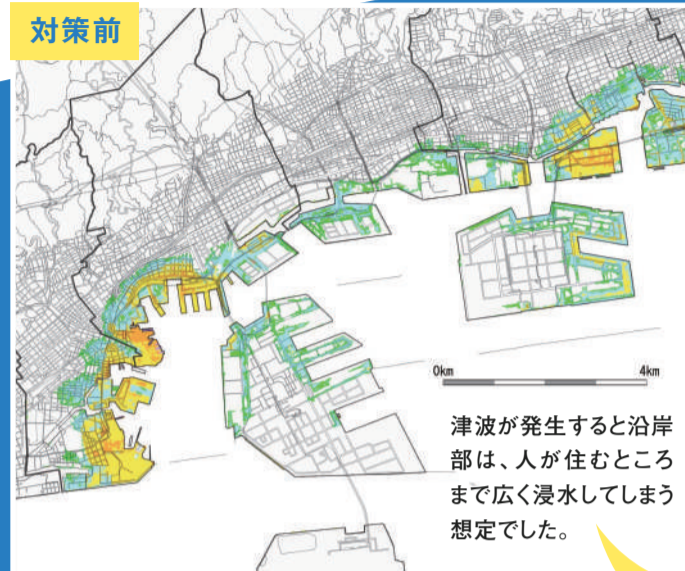
完全に
閉じました



もし、マグニチュード9クラスの地震が発生し 最大3.9mもの津波が襲ってきたら…

●津波浸水想定図

対策前



浸水深さ

- 3.0m以上～4.0m未満
- 2.0m以上～3.0m未満
- 1.0m以上～2.0m未満
- 0.3m以上～1.0m未満
- ～0.3m未満

防潮ラインとは

防潮堤などにより人が住むところや都市部への浸水を防いでいるライン

対策後

人が住むところには、浸水しません。

居住地以外の場所も、浸水するエリアが大幅に減少しました。



住んでいる場所には浸水しなくて安心だね



久元市長の神戸を想う



水門と守ろうと一歩消防団員の殉職
東日本大震災と津波が押し寄せたとき、水門と
関わり、確信はとていようと一歩消防団員59名の
殉職された。市民を守るために命を捧げよう
方々の存在を知りたうは永遠に忘れられませんが
その事実と教訓を胸に刻み、災害対策と
進めさせようといふ求めがあります。神戸市は
千年一度の津波を想定し、防潮堤が完成した
さらに津波や高潮来襲時に水門や陸門を開閉
するシステムを開発し、整備と進めようします。
人々の命を守るために責務を担う方々の命を
最新テクノロジーの守る取り組を進めます。

神戸市長 久元喜造

② リアルタイムカメラ

神戸港防災ポータルサイトでは、沿岸に設置したカメラで海の状況を24時間365日発信しています。また、防潮鉄扉の開閉状況や、海面の高さをリアルタイムで確認できます。



③ ドローン活用



これまでは、岸壁の水中部分が壊れていないか、潜水士が海に潜って確認していましたが、水中ドローンで安全に調査できるように。

いち早く被災状況を把握し、防潮施設に異常がないか確認するために、空から撮影。

※陸門:防潮堤を横断して移動するために設けられた開閉式の防潮鉄扉